

新型コロナショックで世界的株価急落! NISAで何が買われたか? ～既存投資家(投信全体)、新規投資家(NISA向けファンド)、 つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)の投信フロー～

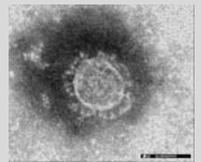
三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

新型コロナショックで世界的株価急落! NISAで何が買われたか?

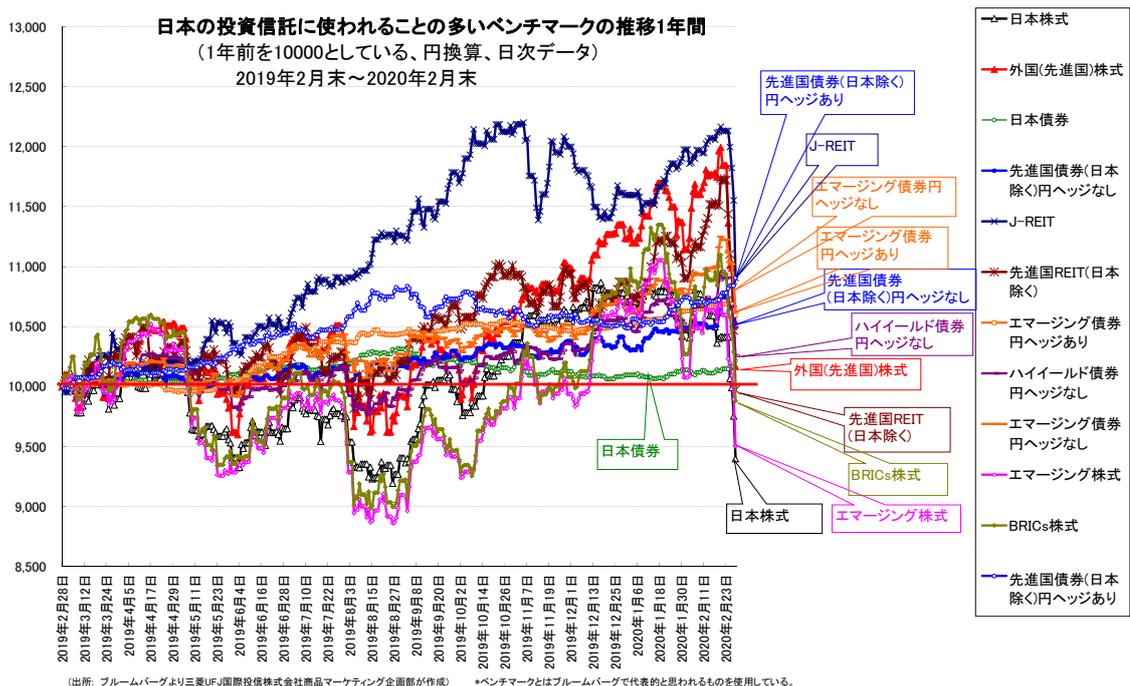
2020年2月は新型コロナウイルス(*)の感染拡大で世界経済の減速への警戒感などから世界で株価が急落した。日経平均株価は2020年2月28日まで5営業日続落で21069.34円と前週末2月21日からの下落率は-9.9%。世界的に株価急落となる中、今年、投資総額約20兆円台(2019年12月末実績18兆6803億円)突破も期待されるNISA(少額投資非課税制度)では何が買われたか?

*新型コロナウイルス…そもそもは2019年12月30日夜、中国(湖北省)武漢市衛生委員会が通達で同市の華南海鮮市場で「原因不明の肺炎」に罹患した患者が相次いでいると公表され、SARS/重症急性呼吸器症候群コロナウイルスによる感染が疑われた事が始まり。その後、2020年1月5日、武漢市政府はSARSやMERSの可能性を排除したと発表。今回のものはSARSやMERS/中東呼吸器症候群コロナウイルスなど6種類のコロナウイルスに当てはまらない新型コロナウイルス/2019 Novel Coronavirus(2019-nCoV)による肺炎。表面に突起が見られ、王冠に似ていることからギリシャ語で王冠を表す「コロナ」にちなんでそう名付けられる。



(出所: 国立感染症研究所)

日本の投信に使われる事の多いベンチマークのパフォーマンスを見たのが下記グラフ。1年のパフォーマンスで好い順に、先進国債券円ヘッジあり、J-REIT、エマージング債券、先進国債券円ヘッジなし、ハイールド債券、日本債券、先進国株式、先進国REIT(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。日本株のパフォーマンスは、2020年2月の1カ月、1年、3年、5年のいずれも下記グラフのベンチマークの中で最低だった。

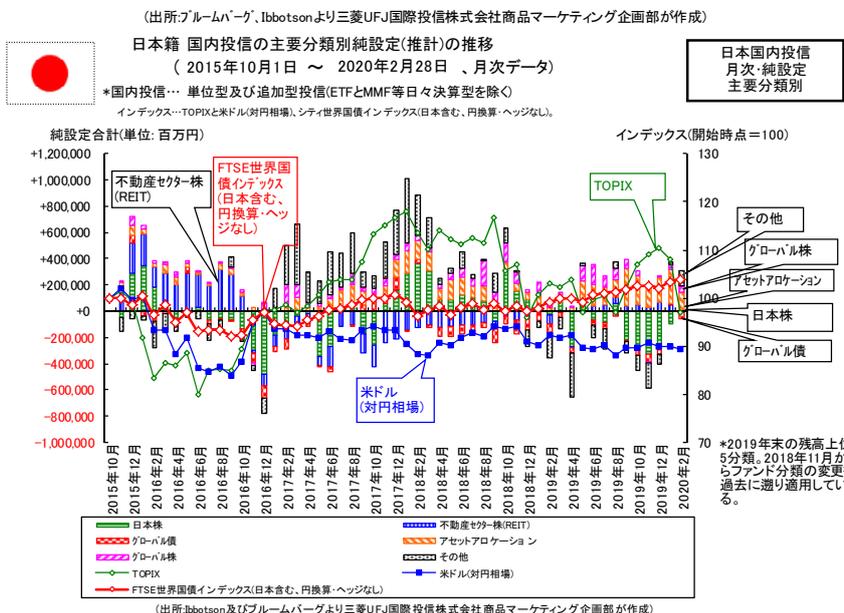
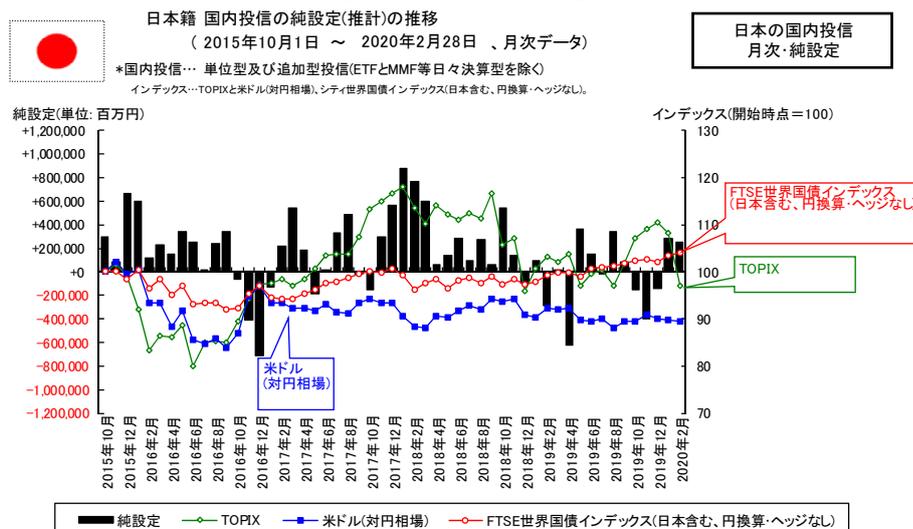


既存投資家(投信全体)、新規投資家(NISA 向けファンド)、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)の投信フロー

<NISA の投信フロー～既存投資家(投信全体)は米国株、グローバル株、アセットアロケーション>

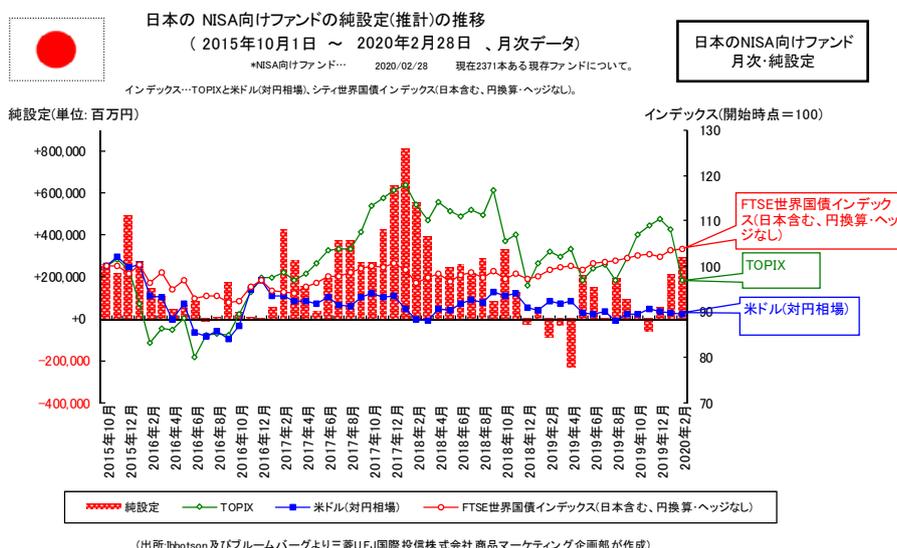
NISA の投資で選択される事の多い投資信託の資金動向(フロー)を見る。当コラムでは、投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けて見ており、前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替、後者の「新規投資家」は「NISA 向けファンド」(後述※2 参照)で代替している。これは日本証券業協会が「NISA を利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URL は後述[参考ホームページ]参照)と言っている事も参考としている。

まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は、最新 2020 年 2 月に+2479 億円と 2 カ月連続の純流入。この 2 月の純設定を投資対象(主要分類～後述※1 参照)別で見よう。2 月は米国大型グロース株やテクノロジー・セクター株、グローバル株、アセットアロケーションなどに資金が集まっている。テクノロジー・セクター株の純設定は+834 億円と 2018 年 2 月以来 2 年ぶりの大きさを、6 カ月ぶりの純流入となった。2 月 25 日に 2 本計約 960 億円で設定された世界のテクノロジー関連株に投資するファンドによるところが大きい(販売会社は大手証券 1 社で、当初設定額は 2020 年最大)。一方、日本株の純設定は 2 月に-21 億円と、6 カ月連続純流出も、前月 1 月の-912 億円や、前々月 2019 年 12 月の-2900 億円から大幅に鈍化している。



※1: 主要分類…モーニングスター分類で2019年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。米国大型グロース株、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

< NISA の投信フロー～新規投資家(NISA 向けファンド)はグローバル株、アセットアロケーション、米国株～>
次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。最新 2020 年 2 月は+2933 億円と、前月 1 月 (+2095 億円)を上回り、2018 年 10 月 (+3270 億円)以来 1 年 4 カ月ぶりの大ききで、3 カ月連続の純流入(*NISA 向けファンド…後述※2 参照)。



※2: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は下記参照)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

日本証券業協会は「NISA 制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等は NISA 制度を十分に利用できない場合がある」(URL は下記参照)、投資信託協会は 2013 年 11 月 21 日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISA においては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」と言っている(URL は下記参照)。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。

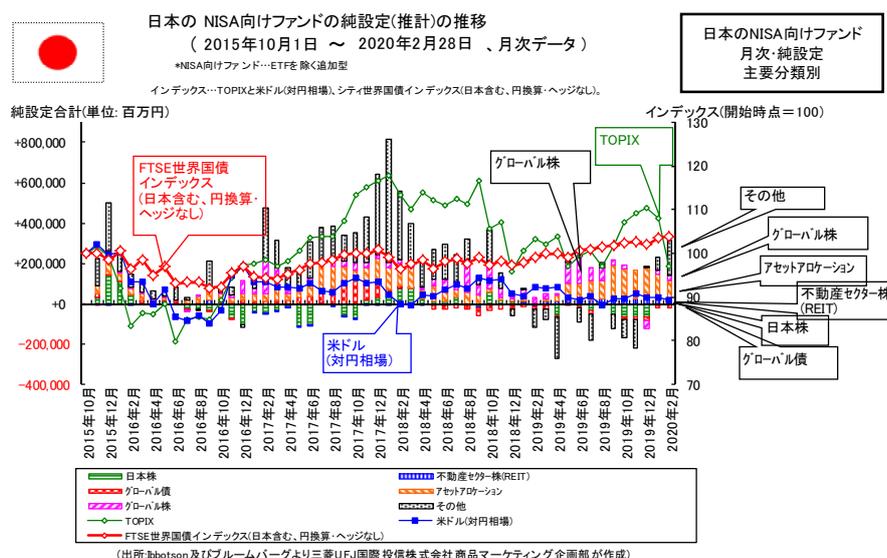
また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2020年2月28日時点で2371本となった。

金融庁「つみたてNISAの対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2019年11月11日付日本版ISAの道その287「2019年もあと1カ月半近く! NISA 枠 2019年分を使う時間は限られている!! しかし個別株銘柄選びが難しい。そこは投信、NISAでどの様な投信が買われてきたかを参考に。~既存投資家(投信全体)、新規投資家(NISA向けファンド)、そして、つみたてNISA適格投信の投信フロー~」…

「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_191111.pdf」、2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

この新規投資家と思われる投信の2020年2月の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体と同じ主要分類を用いると、最新2月の純設定1位はテクノロジー・セクター株(前月1月は67位)、2位はアセット・アロケーションその他(前月1月は1位)、3位は米国大型グロース株(前月1月も3位)、4位はマルチオルタナティブ(前月1月は6位)、5位はグローバル大型株(前月1月は7位)となっている(下記グラフで、テクノロジー・セクター株、米国大型グロース株、マルチオルタナティブは「その他」に、アセット・アロケーションその他は「アセットアロケーション型」に含む~※1参照)。

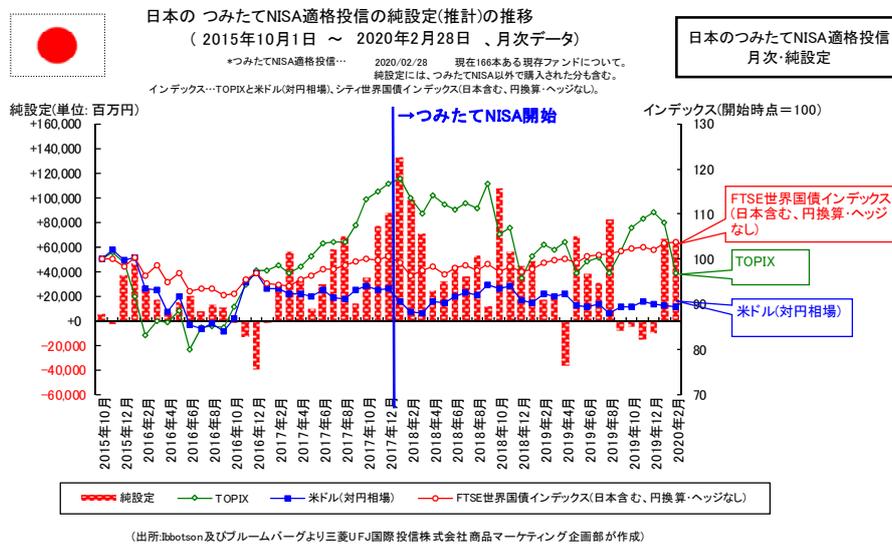
既存投資家でも新規投資家でも純設定額の最も大きかったテクノロジー・セクター株は実質グローバル株であり、グローバル株の純設定は2月に+2933億円と、前月1月(+194億円)を上回り、2カ月連続の純流入となった。日本株の純設定は2月に+20億円と、前年2019年9月から純流出が続いていたが、6カ月ぶりに純流入となった。



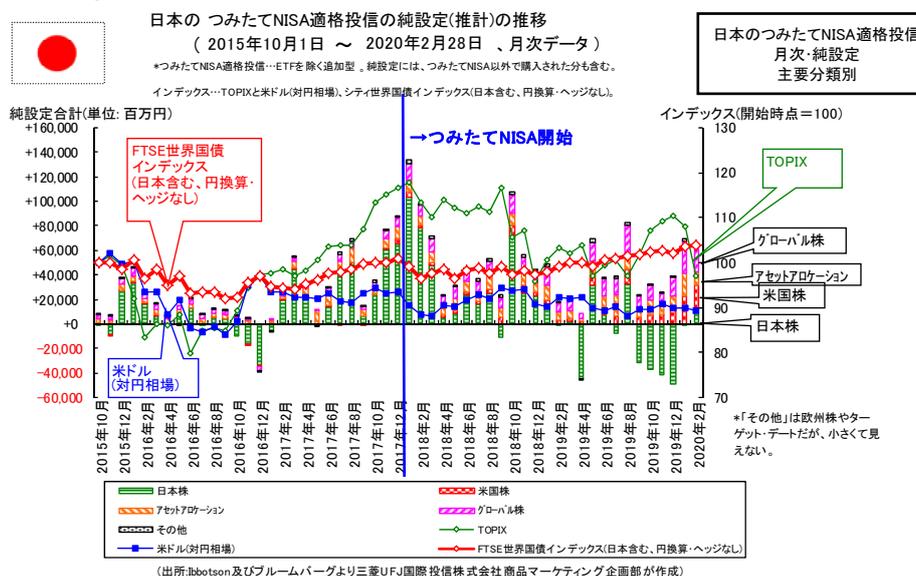
< NISA の投信フロー～つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)はグローバル株と米国株、次いでアセットアロケーション)～>

上述した新規投資家は若年層が多いと思われるが、その若年層に多い、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)の純設定を見る(*つみたて NISA 適格投信なので、つみたて NISA 以外で購入された分も含む、ETF を除く～つみたて NISA 適格投信については後述[参考ホームページ]参照)。2020年2月13日に投資信託協会が公表した投資信託に関するアンケート調査結果によれば、投資信託を現在保有している者のうち、つみたて NISA で保有している者の割合は、20代では39.2%にのぼり、次いで30代が32.7%、40代が20.2%、50代14.8%、60代7.0%、70代6.8%と、若年層ほど高かった(URLは後述[参考ホームページ]参照)。

つみたて NISA 投資家の投信純設定は、2020年2月に+641億円と前月1月(+670億円)とほぼ同程度で、2カ月連続の純流入だった。



この2月の純設定を投資対象別で見る。純設定の大きい順にグローバル株と米国株、次いでアセットアロケーションだった。一方、2019年12月にかけて4カ月連続でマイナス幅を拡大していた日本株が、2月は6カ月ぶりに純流入へ転じていた。



以上、NISA で何が買われたかについて、既存投資家、新規投資家、つみたて NISA の投資家の順に見てきた。2月はいずれも、グローバル株や米国株が人気だった。新規投資家やつみたて NISA の投資家では、日本株人気が戻ってきているようにも見える。もちろんこれは 2020 年 2 月においてのことで、今後を示すものではない。だが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(2018 年 3 月 7 日付投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]参照)、言われる中、少しでも参考になれば幸いである。3 月に入ってもボラタイルな相場変動が続くなか、引き続き、データ等をしっかり見て判断していきたいものである。

以 上

[参考ホームページ]

2020 年 2 月 21 日付金融庁「NISA・ジュニア NISA 口座の利用状況調査 (2020 年 12 月末時点(速報値))…

「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20190213/01.pdf>」。

2020 年 2 月 13 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2019 年(令和元年)投資信託全般」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/>」。

2018 年 3 月 7 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017 年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、

つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1% 以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、

2019 年 4 月 26 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」。

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー

…「<https://www.am-mufg.jp/market/report/investigate.html>」、「<https://www.am-mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」

～Google 等で「投信調査コラム」もしくは「日本版 ISA の道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・ TOPIX (東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・ FTSE 世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・ 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。